

A close-up photograph of a brown squirrel sitting in a nest made of white, fluffy material. The squirrel is looking directly at the camera with its hands clasped in front of it. The background is a textured, brownish surface.

sample

いつも、ぐいざいん、エゾリーナ

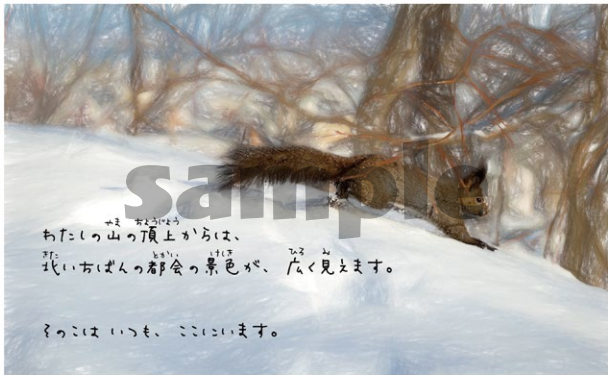
文：久保麻紀 絵：久保ヒデキ

sample

sample

いつも、そばに、エゾリーナ。

sample



わたしの山^{やま}の頂上^{ちやうじやう}からは、
北^{きた}いちばんの都会^{とがひ}の景色^{けしき}が、^{ひろ}く見^みえます。

そこはいつも、ここにいます。

sample





ちやうほう とうち とちやう
頂上をめがす道の途中、
びよっと森から出てきたり、
びっと枝から見ていたり。

せっきやく来たのに会えなくて、
ため息をおいて帰る人も、
実はけっこうたくさんいます。

けれど どこかに、必ずいます。

そのこの名前前はエゾリーナ。
わたしの山に住むエゾリスです。

わた^にか^がず
見渡す限り、白、白、白。

ツンツン尖^{とが}った風^{かぜ}が^なを^ぬけけると、
わたしい^うに積^つもった雪^{ゆき}がシャラリン。

この美^{うつく}しさにも、この厳^{アビ}しさにも、
すべての命^{いのち}が震^{ふる}える冬^{ふゆ}。

sample エゾリーナは、
わたしの根^ねもと、雪^{ゆき}の中^{なか}へ頭^{かぶ}をズボッ。





sample

深い雪のもとと下、
土に埋まったオニグルミの実、
かすかな匂いを嗅ぎあてる
自慢の鼻も、
まっ白、まっ白、まっ白です。

カジカジ、ゴリゴリ、
夢^{むちゆう}中^{ちゆう}で食^たべるエゾリーナ。

一体^{いつたい}どんな味^{あじ}がするのでしょうかね。

見^みていると、うれしくなります。

だって、わたしがつけた^つ穴^{あな}ですから。

そう、わたしはオニグルミの樹^き。

地^ちの大^{だい}木^{ぼく}に街^{まち}が拓^{ひら}かれるより、ずっと、

ずっとずっと古^{ふる}くから、

この山^{やま}に生^いきています。









ふゆ あさ シんと静か。
冬の朝は
しろ ちか あか いろ すまみ
白い街と蒼い空の隙間から、
あか ひ っぽ
赤い陽がぽつと丹って、
もり おむ と
森の眠りを やさしく やさしく溶かします。

エゾリーナも スッとめざめ、
わたしの洞から ぴつと飛び出て、
まっ白な今日へまっすぐに。

ま ち ゆき の さ さ や き も、 もり あさ いろど
舞い散る雪のささやきも、 森の朝を彩ります。
「エゾリーナは、 今日も元気。
さむ っぽんち
寒くたって、 とっても元気。」



ある日、ふと気づくのです。
陽がやわらかくなったなあ、風が甘くなったなあ。

わたしの根もとを すっぴり包んでいた雪は、
まるくまるく解けていぼんで、
根開けから土がにっこり。

あ
会うのは、半年ぶりくらい。
甘い風に乗ってゆくとめがめた大地の温った薫りに、
胸がウキウキ弾みます。

よぼよぼ、ずぶずぶ。
名残りの冬の森をいくエゾリーナのステップも、
まるく弾んで、まるく笑って。





昨日と今日はよく似ているから、
何も変わらないようにも思えます。

けれど何か、どこか少し、
違いは必ずあるものです。

エゾリーナも、こう。

凍える日々に命を包んで温めた長い尻尾は、
はらりはらりはらけ落ちて、
ツヤツヤ栗色ショートヘアへ。
ぽてっとしていたカラダつきも、
しゅっとスリムに変わっていきます。

sample



samp

ふゆ はる
冬から春へ、ちよつとずつ。

いちにち
一日いちにち、ひとつずつ。



変化はいつもゆっくりだから、
気づかないこともよくあります。
けれども確かに、ちかちかちかと、
すべては動いていますよね。

おたしも、そう。

この地に深く根は広がり、
光を追いかけ葉は伸びて。

いつか花ひらき、突ります、
みんな、そう。きっと、そう。



sample

が
動いています、
ちゅくちゅくちゅくと。



sample

^{はる}春はいきなり、
^も木を染めます。

わたしは ^も萌える ^{わかば}若葉の色に。
^{はな}花たちは ^{いざん}自分の ^{ばしょ}場所で、
^{いざん}自分の ^{いろ}色を ^{かがや}輝かせます。



わたしの幹の洞の中では、
新しい命が續々誕生。

エゾリーナたちも
やさいばらくは、
ここでみんな暮らします。

そして夏が来たかなおという頃、
仔は巣立ち、家族と別れ、
ひとり生きる自分場所へ。

誰もここには戻りません。
わたしも、もう会うことはありません。

我^{わが}の短^{みじか}い夏^{なつ}が往^ゆき、
すしずつ
ひとつづつ、
すべては移^{うつ}り
めぐり
変わ^かって、





sample

エゾリスは、

た
食べて

う
埋めて

かく たくわ
隠して蓄え、

く ふゆ そな
来る冬に備えます。

たか す あか から も
高く澄んだ秋空の下。

待ちに待った春を迎えられるのは、
産まれて初めての冬に震えたエゾリーナたちの
ほんの数割といわれます。

そして三度目くらいの冬の途中で、
多くが虹の橋を渡る時も。

短すぎるのが、十分なのが。
わたしにはわかりません。

ただひとつ、わかるのは、
すべての命の灯は必ずいつか消えるということ。



sample

はじまり、
おわり。
おわり、
はじまり。



そのこは^{いま}今も、まっとういます。

はる ^{むか}むか ^ここ ^{むね}むね
春を迎えた仔たちの胸に、
わたしの^ね根や^は葉の^う伸びゆく^ま失いに、
^ああ ^ああ ^{ひと}ひと ^{こころ}こころ
出会った人の心にも。

そのこの^{なまえ}名前はエゾリーナ。

いつも、いつも、そばにいます。

いつも、そばに、エゾリーナ

2019年2月25日 初版発行

文 久保麻紀
絵 久保ヒデキ

印刷・製本・発行 石田製本株式会社
〒063-0836 北海道札幌市西区発寒16条14丁目3-31
TEL 011-676-4520
<http://i-bb.co.jp/>

©2019 Maki Kubo / Hideki Kubo / Ishida Bookbinding

※本書の無断複製（コピー、スキャン、デジタル化等）並びに無断複製物の譲渡及び配信は、著作権法上での例外を除き禁じられています。

また、本書を代行業者などの第三者に依頼して複製する行為は、たとえ個人や家庭内での利用であっても一切認められておりません。

落丁・乱丁はお取り替えいたしますので、弊社までご連絡ください。

ISBN978-4-909939-03-6

あとがき

エゾリーナの誕生日は2013年5月1日。それから現在もSNSで、毎日一つのフォトメッセージを発信し続けています（北海道胆振東部地震のあった2018年9月6日だけ休みました）。そのSNSを何年もお楽しみくださっている女性が、「エゾリーナを主人公にした物語の絵本を作ってみては」と。それを機に、手もとにある十数万の写真と数千の言葉を改めてじっくり見つめ直したら、この命の物語になりました。

素となる作品は2018年11月18日のコンサートで、バイオリン2本とピアノ1台が奏でる調べにのせ、読み語りいただいています。そこからさらに絵にも言葉にも手を加えて、完成したのがこの絵本です。実写をタッチしたエゾリーナの絵に、健気な姿を語る言葉に、忙しい日々の中つい忘れがちな、大切な何かを感じてもらえたら、とてもうれしく思います。

いつもどこでもエゾリーナを愛してくださるSNSのフォロワーさん、こんなに立派な絵本に仕上げてくださった いしだえほん さん、それをいま手にしてくださっているあなたにも、心から感謝を込めて。

エゾリーナ® Ezoreena®は、当著者の登録商標です。

石田製本の直販サイト「いしだえほん」にて、シリアスな物からシュールな物まで、楽しい絵本が続々発売中です！
<http://p-books.jp/ehon/>

sample

ISBN978-4-909939-03-6

C8771 ¥1200E

定価：本体1,200円+税



9784909939036



1928771012000

sample



ふと。